

御嵩町産業廃棄物処分場問題三者会談後共同記者会見の共通コメント

6月20日に行った三者会談以降、三者の事務レベルで4つの論点である「法手続き」「協定書」「県の調整試案」「処分場の計画地」について、産業廃棄物処分場設置計画から現在に至るまでの間で、時系列ごとに、三者それぞれの考えや理解について検証してきました。

事務レベルでの論点整理を踏まえて、本日、三者会談を行った結果は、次のとおりです。

- 1 三者は、御嵩町内での産業廃棄物処理施設建設計画が長期にわたり解決されないまま現在に至ったことは、それぞれの考えや理解について、十分に意思疎通ができなかった結果であることを確認しました。
- 2 三者は、本計画をめぐる争点が長期にわたり拡散し、その結果として様々な批判が増幅されたことについて、今回の話し合いによる解決を通じて、関係者の名誉と信頼が回復されるべきであるとの思いで一致しました。
- 3 県と町は、その許可申請にかかる意見の相違から、行政として、10余年にわたって申請を放置したことについて、遺憾の意を表明しました。
- 4 さらに、三者は、前御嵩町長襲撃事件について、早急にその真相が究明されることを求めます。
- 5 三者は、今後、本計画の取り扱いについて、住民投票の結果を尊重する方向でさらに検討を行っていきます。
- 6 そのうえで、三者は、処分場の計画地の取り扱いについて協議していきます。